

体力・地域スポーツ力向上推進事業【大河原町】

1 事業名

体力・地域スポーツ力向上推進事業

(専門的技能を有する外部人材等を活用した小学校における体育授業等の改善及び持続可能な運動遊びの創出)

2 事業の目的と概要

本事業は、仙台大学との連携により大河原町の児童の体力・運動能力を保持し、さらに向上させることをねらいとする。また、体力・運動能力と学力との相関や相乗効果についても調査・研究を行い、有効となる「運動」の普及を図るものである。

3 業務内容

(1) 体力・運動能力向上に有効な業間休みの「運動」の検討・開発

① 仙台大学との連携により、児童が業間休み等に自主的・恒常的に楽しみながら取り組める「運動」を開発する。

② 仙台大学の先行事例や大河原小学校の実態などから、実施する「運動」を選定する。

(2) 業間休みにおける「運動」の実施

① 学年や発達段階に応じて、飽きずに継続して「運動」に取り組めるよう配慮する。

② 冬季間や雨天時等も「運動」が実施できるように配慮する。

(3) 仙台大学との連携による教員研修と児童への技術指導

① 身体の動かし方や運動の仕方、正確な体力・運動能力調査の測定等を行うための教員研修を実施し、体育科での指導に生かす。

② 児童に対して、仙台大学の教員・学生が直接技術指導等を行う機会を設ける。

(4) 家庭・保護者への啓発

① 体力・運動能力の向上のため、家庭に対して外遊びの重要性や生活習慣の改善、食育の大切さ等について発信する。

② 本事業における調査・分析に係る個人情報の取扱いについて、家庭・保護者の理解・同意を求める。

(5) 調査・研究内容の分析とフィードバック

① 体力・運動能力調査の結果と大河原町が実施する年2回の標準学力調査とのデータを活用し、両者の相関等を調査・分析する。

② 分析結果等から効果的な「運動」や取組を検証し、以後に取り組む「運動」に還元する。

③ 有効な「運動」や取組を町内や管内に広める。

④ ICTを活用し、事業開始時及び終了時の児童の体力・運動能力を記録し、調査・研究の分析を行う。



右斜め前方と後方の2箇所から投球フォームの動画撮影及び記録の測定



足を開いて肘を上げながら投げるフォームを確認し、いざ実践



ミニハードルを使ってリズムよく跳び越えていく運動

4 目標及び達成度

目 標	実 績
<p>①全国体力・運動能力調査の結果向上</p> <p>【指標】 全ての実技項目が全国平均を上回る。</p>	<p>令和2年度は全国体力・運動能力調査は実施されなかったことから全ての項目のデータを得ることができなかった。したがって、今年度はこれまで課題として挙げられていた「ソフトボール投げ」に焦点化することとし、指導を受ける前の①11月と指導後の②2月(予定)の測定データを比較することにより、変容を見取っていく予定である。</p>
<p>②身体を動かす遊びやスポーツに親しむ児童を増やす。</p> <p>【指標】 身体を動かす遊びやスポーツが好きと回答した児童の割合95%を目指す。</p>	<p>回答の結果(5年生対象)は以下のとおりとなった。</p> <p>H30 男子95.0% 女子 81.5% R01 男子98.4% 女子 85.1% R02(12月)男子95.7% 女子 89.0%</p> <p>◎12月の段階では「身体を動かす遊びやスポーツが好き」と回答した児童の割合は全体で92.3%となった。昨年度よりも男子は減少したが、女子はH30年度と比較して年々増加してきている。</p>
<p>③身体を動かす遊びやスポーツに親しみ、集中力や忍耐力を養うことを通して学習効果を上げる。</p> <p>【指標】 身体活動時間と学力との相関関係を明らかにする。</p>	<p>身体活動時間の多い順に5つのグループに分け、町学力調査(6月実施)の評定値(国語、算数3段階の平均)の相関関係を見たところ、以下のとおりとなった。</p> <p>第1グループ(週8.5時間以上) 評定平均1.95 第2グループ(週4.7～8.5時間未満) 評定平均1.91 第3グループ(週2.6～4.7時間未満) 評定平均2.18 第4グループ(週1.4～2.6時間未満) 評定平均2.37 第5グループ(週0～1.4時間未満) 評定平均2.03</p> <p>◎適度な身体活動時間が確保されている場合に評定値が高い傾向が見られる。</p> <p>◎身体活動時間が多い児童ほど、「身体を動かす遊びやスポーツが好き」と肯定的に回答している。</p>